



R.I. District2610 . ROTARY CLUB OF UOZU
魚津ロータリークラブ 会報誌

2009 - 2010 年度 RI 会長 ジョン ケリー
魚津 R.C 会長 大城 道雄

第 2723 回 例会報告

2010年4月9日

ゲストならびにビジター紹介

誕生祝 池上夫人 今年で57歳になります。
毎日孫の世話で忙しい日々を送っています。

会長挨拶 1994年の会長は朝野昌成君でR会長のターゲット
友達になろう」をうけ3つのテーマを掲げられました。

四大奉仕の実のある業種の推進
友達になることにより社会への思いやりの輪を広げよう
4つのテストで行動しよう

会員数は64名でした。

幹事報告 * 魚津しんきろうマラソン実行委員会より 大会役員委嘱について
* 魚津市より 高速バス魚津停留所開設案

出席報告 本日の出席者 30名 出席率 88.23% 欠席者 4名
メイクアップ済み中島久義君
2721回修正出席率 88.23%から88.23%

ニコニコボックス 大城君、野沢君、寺崎君、羽田君

委員会報告 社会奉仕委員会 松田君
4月16日桃山運動公園にて野外例会を開催します。公園内にて植樹をしますので
準備願います。

本日の卓話

「活字に生きる」

新聞は、昔から変わらず記事と見出しと写真でできているオールドメディアなどと言われますが、実は、意外に変化しています。私が入社した昭和 55 年当時の新聞は 15 段（分割）でできており、当時は 1 段 15 文字で作っていました。それが昭和 57 年から



14文字、13文字、12文字と1段当たりの文字数が減り、その分文字自体が大きくなってきました。平成13年には、ついに11文字になり、20年3月には15段を12段にしてスペースを広げ、さらに大きい文字になりました。新聞社によって多少違いますが、ほぼ限界だろうなと感じています。

従来にない情報の伝え方も出てきました。平成19年から掲載写真のそばに動画のバーコードを付け、ケータイに取り込めば、その写真の様子が映像で見られるようにしました。さらに、インターネット新聞も始めました。こんな感じで、さまざまな工夫をしていますが、やはり原点は紙の新聞だと思っています。

よく若者の活字離れが叫ばれますが、その影響は大きいと言えます。画面で記事を読むと、スクロールすることもあるけど、紙で読む以上に、つい流し読みしてしまうんですね。思いこみ易くなり漢字自体も何となくイメージで捉えてしまう。私たち新聞社の人間も、キーボード入力は上達したけれど、覚えていたはずの漢字が書けなくなるケースも出てきました。

記者が記事を手書きしていた時代は、デスク(上司)に紙の上から赤字を入れられて直すので、どこをどう直されたかが後でも分かり、自分なりに検証できましたが、パソコンだと文章を上書き削除するので、どう直したか分からず、新人の文章力も上達しにくくなりました。また「活字のマジック」と言いますが、印刷文字で表すと文字の間違いやおかしい文章も何かサマになって見えてしまい、結果、重大な間違いの見落としにもつながることがあります。

記者の書いた記事は、見出しがつきレイアウトされ、実際の新聞の形にする制作部を通して、最後は「ミス防止の最終関門」の校閲で完了という流れですが、ミスは、そのどこで発生するかわかりませんが、ミスは最も目立つ見出しで発生しやすいのです。具体的にどんなミスがあるかといいますと、私は、間違いには「単純な字の間違い・省略ミス・言葉の誤用」の3つがあると考えています。特に、ケアレスミスについて「大きい字が意外に見落としやすい」というのが、経験から得た教訓です。

こんなことを、新聞社は日々、結構真面目に考えています。皆さんも、文章を書いたり挨拶をされたりされることが多いと思いますが、何か参考になれば幸いです。 了